令和５年度

事業計画書

社 会 福 祉 法 人

放　泉　会

社会福祉法人

放泉会

hは鳥をイメージ。また、human（人間関係）、放泉会、福祉のh。

下の青は放泉会の泉をイメージ。また、波紋は地域、情報発信の意。

全体として色合いの緑、青は早蕨（さわらび）を基本に自然をイメージしている。

基　本　理　念

福祉は人なり

人は心、こころはあい、愛は人

・命を尊び、利用者個々のニーズに沿った対応に心がけるように、職員の人間性、専門性を高めていきます。

・サービスの向上の為、「気くばり」「心くばり」「目くばり」「声くばり」を職員の心得として、質の向上を目指します。

・利用者の方には快適を、家族の方には安心感を得られる

介護を行います。

令和５年度
社会福祉法人　放泉会　事業計画

原　点　回　帰

原点　ものごとを考えるときの出発点や基準になるポイント
回帰　ひと回りして、もとのところに戻る

令和２年初頭から続くコロナ禍の中､放泉会は､さわらび苑を開設してから 38 年を迎える。
　この間、大幅な人口減少、高齢化の進展、この一年では新型コロナウイルス蔓延、急激な物価高騰などにより、当法人を取り巻く環境は大きく変化した。高齢化が進み、多くの福祉課題がある地域社会の実現と､安定した財政を継続し持続可能な法人経営､そして将来を見据えた人材確保と育成をどのように図るか､たくさんの課題への対応が求められる。また、感染症対策に加え、様々な非常事態に備えての対応力の強化を求められる。
100 年続く社会福祉法人である為の基礎を固める。

　令和 4 年度、長引くコロナ禍において、当法人は新型コロナウイルスによって大きな影響を受けた。日々、職員による感染予防にも関わらず、コロナウイルスは法人内の事業所に入り込んだ。今年度は、その経験を活かした対応を介護、保育にて行い、緊急事態に備える重要性を意識し、事業継続計画（ＢＣＰ）を年度内に完成させ、非常時対応の為、計画に沿った訓練に取り組む。

　ここ近年、経営資源において最も重要である「人財」が不足傾向にある。引き続き、人材確保と養成に積極的に取り組み、職員募集活動に力を入れる。介護、保育の現場実習の受入れ、就職フェア等にも積極的に参加し求職者との接点を増やす。新たな取り組みとして、新卒者に対してそれぞれの学校の出身職員の同行訪問を行い、学生からの親近感に繋がるよう取り組む。新規採用者を含む、既存職員には法人理念の更なる浸透を深め取り組みを行う。基本理念、基本方針について、理念の唱和、掲示､「職員必携録」の活用にて浸透を図る。
　また､組織の活性化を図る為､年間を通して適時､異動による人事交流を行う｡引き続き、適切な人員配置を行い、処遇改善加算を算定し、処遇改善を図る。
専門家と相談し、勤務に応じた公平な評価結果に基づく給与体系の見直しを行う。
　近年、停滞気味であるゆうイング短期入所、デイサービスゆうイング、サンチャイルド長久さわらび園での病後児保育については､市内居宅介護支援事業所､各関係機関に空き情報を提供し、安定した稼働状況の維持を図る。
　また､財務管理の強化など社会福祉法人に求められる内部統制のチェック､法令順守においては、専任の理事を任命する。

【地域貢献】
国、県、市がコロナ対応緩和を受け、地域貢献活動を再開する。「ウィズコロナ」「アフター

コロナ」の中、稲積さわらび庵、元ＤＳさんべを各地区の交流スペースとして開放し、地域で暮らす方々の「支え合い」の関係を探る取り組みを行う。
各島根県内の関係団体の他、大田市介護保険サービス事業所連絡協議会等に参加し、他法人との連携を図り、緊急時においては対応する。
波根町で「ゆめの子文庫」を主宰・勝部良子先生所蔵の児童書を寄贈いただき、学童内に図書スペースを設ける。学童、保育園の子どもたちをはじめ、将来的には、地域の子ども達にもその輪を広げ、読書、読み聞かせを通じ、「豊かな情緒を育む」一助を担う。

【経営方針】
(1)　適切な法人経営
・理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催
・苦情解決の為の第三者委員の設置
・リスク管理、法令遵守責任者によるコンプライアンスに関する管理体制の構築
(2)　財源の確保
・各サービス、安定した稼働率の維持
(3)　その他
・定例の運営会議において、組織を横断した連携体制の構築
・法人、介護、保育の関係団体への参画
・大田市介護サービス事業所連絡会への再加入

組織基盤強化
①役員会開催
・理事会　　年５回（3 カ月に１回以上）
・評議員会　　定時評議員会　年１回（必要に応じて随時開催）
②監査
・監査会　　年１回（決算時）
・内部経理監査　年２回（担当者による）
③役員研修会
・中国地区セミナー
・全国経営者研修会
・その他各種研修会

事業所別目標値（稼働率）

事業所名	目標値（稼働率）
サンシルバーさわらび（契約）	９９％
サンシルバーさわらび（短期）	一日１名（空所利用）
グループホーム	９９％
居宅さわらび	介護９５名/月　予防１１名/月
ゆうイング（契約）	９９％
ゆうイング（短期）	７８％

ＤＳゆうイング	８０％
サンチャイルド	１３０名/月
学童クラブ	通常期　５５名

〈サンシルバーさわらび（空床利用型短期入所生活介護事業所）〉

＜サンシルバーさわらび方針＞

１．居心地の良い生活環境の支援。
２．家族との繋がりを維持した生活支援。
３．個々に応じた活動の支援。
４．法人内の各施設との交（人事含む）流を強化する。
５．各地域（特に池田、志学地区）への行事、作業の参加をできる限り行う。

＜相談員部門＞

１．ICF の考え方に基づいたユニットケアの追求。
２．タブレット端末等の活用により業務の一層の効率化を図る。
３．家族・各関連機関・各事業所との連絡調整を密に行い、迅速な対応に努める。
４．入院等により空床が出来た際は迅速に空床利用短期入所生活介護の調整を行い、年間稼働率 99%を目標とする。

＜介護支援専門員部門＞

１．入居者個々の 24 時間シートを基に地域交流、外出支援等を含めたユニット型ケアプランを作成。多職種協働で自立支援につなげる。支援目標の共有、統一した援助ができるように担当者会議、各フロア会議、ミーティング、連絡ノートを活用し、共通認識を深める。
２．契約・入居開始時より看取りを意識し、入居者や家族の意向を各職種が把握する。個々の生活観、価値観を大切に、その方らしさが最期まで保たれるケアプランを作成する。
３．担当者会議は入居者や家族の積極的な参加を目指し、信頼関係を構築する。
現在の感染状況等を踏まえて、家族参加が難しい時は、電話やメール、オンライン等の手段を用いて、情報共有する。
４．短期入所利用者の居宅での担当者会議に出席。家族や居宅ケアマネージャー、他サービス事業所と連携し、短期入所サービス利用時、利用時以外での様子の把握に努め、自宅での生活が継続できるように支援する。
５．LIFE のフィードバックから入居者の状況を把握し、ケアプランの立案に活かす。

＜サンナース部門＞

１．入居者個々の健康状態を常に把握し、疾病の早期発見、早期対応を行い、健康管理に努める

２．入居時より看取りを意識したケアを行い、入居者、家族が安心して最期を迎えられるような看取りケアを心がける。
・入居時、面会時に家族より病歴、生活歴やどのような終末期を迎えたいかを確認し、希望に沿った看取りケアを行う。
・医療職としての知識、技術を生かし、多職種協働での看取りケアを行う。
３．感染症対策として、職員、家族も含めての健康管理を徹底し、発生時は嘱託医の指示を受け対応する。
４．看護職員の連携強化の為に毎朝の申し送りにて情報を共有する。また、看護体制・業務の見直しを検討する。
５．ユニットケアに於ける看護師の役割等についての知識を深め、介護職員と連携した看護を行う。

＜機能訓練指導員＞
１．ADL の維持や向上・趣味や特技を生かす・外出時の動作獲得など、個人の目的・目標に沿った個別性ある訓練を実施していく
２．ベッド上でも快適に過ごせるよう他部門との連携し適切なﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸを行う。
・身体機能に合ったベッドマットを選択し活用する。
・個々に合ったポジショニングクッションを活用する。
・ポジショニング技術の統一化・向上、また褥瘡予防のために勉強会を実施する。
３．適切な福祉用具を選択し使用することによって残存機能の維持と向上、安全な生活動作に努める。
・身体機能に合った車椅子・歩行器を選択し、自操能力の維持・移乗動作の維持・安楽な姿勢を保持する。
・移乗介助用具を正しく使用することで、入居者の安全安楽な移乗・職員のけが防止に努める。
・個々の身体機能に合った福祉用具について多職種と意見交換を行う。
４．LIFE のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸから利用者の状況を把握し、訓練計画の立案に活かしていく。

＜サンヘルパー部門＞
１．ユニットケアの追求
・24 時間シート、日課計画表の継続、見直しによる再作成を行い、入居者の居場所づくりと日々の暮らしを大切にする。
・介護員個々の人間性・社会性・専門性と役割責任意識の向上に努めていく。
・身体介護、心に寄り添うケアを両立し個々のニーズに沿った介護を実践する。
・入居者と家族との関りを支援する。対面での面会、外出支援の再開。（感染予防として、近況を電話やメールにて報告）
２．介護機器の活用をしていく
・入居者の快適・安心・安全のケアの提供。

・職員の腰痛などの予防、マンパワーの代替え。

３．サービスの質の均一化、向上を図る

・月に１回以上のフロア会、リーダー会を開催し、各ユニット同士の質の均一化を保てるように検討していく。

・年計画で勉強会、事例検討会を開催しスキルアップを目指す。

・実習、ボランティアの受け入れ。

・講師派遣（初任者研修等）

＜サンキッチン部門＞

１．栄養ケアマネジメントについて

・入居者・家族の意向を尊重した栄養ケア計画を作成する。

・食事時の観察を行い、必要に応じて嘱託医・多職種と協働し、食事に対する楽しみが持てることや健康・経口摂取が維持できるよう栄養ケアマネジメントを行う。

・LIFE のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸから入居者の栄養状態を把握し､栄養ケア計画書作成に活かす。

２．療養食について

・嘱託医の発行する食事箋に基づき、必要に応じて療養食を行う。

３．食事提供について

・キッチンと入居者の生活の場が近いことを活かし、調理員個々がより入居者への理解を深め、これまでの生活や健康状態に合わせて、柔軟な食事提供ができるよう努める。

・アレルギー対応の指示を確実に実施する。

・本人・家族より聞き取った対応可能な嗜好等での食事内容の変更を行う。

４．看取り期の食事提供について

・家族にも協力を仰ぎ、多職種と相談しながら最期まで食べる楽しみが継続できるよう、入居者が食べたいもの、好きなもの等を提供する。

５．衛生管理について

・個々が衛生意識を高く持ち、体調管理に気を付け、感染症を予防する。

・こまめな手洗い、確実な加熱、衛生的な食品の取り扱い、食品の適切な温度管理を行い、食中毒予防に努める。

・キッチン内の清潔を心掛け、衛生管理に努める。

〈ゆうイングさわらび（併設型短期入所生活介護事業所）〉

＜ゆうイングさわらび方針＞

１．サンシルバーさわらび他法人内の各施設と密な連携を取り、法人本部としての務め（人材確保等）を担うよう共に歩みを進める。

２．法人内での人事交流を定期的に行い、柔軟な対応が出来る職員の育成を目指す。

３．職員研修、自己研鑽と啓発を目的として、各種研修会に参加し、知識、技術の研磨を図ると共に、資格取得を促す。
４．教育機関等の実習施設としての受入れをするとともに、地元自治会、老人会、保育園、小学校等生活教育の場としての機能を発揮する。

＜相談員部門＞
１．施設入所待機者を把握し入退所の調整を迅速に行う、また短期入所に於いても居宅事業所との連絡を密にし、スムーズに調整を行うことで、稼働率アップに繋げる。
２．家族・各関係機関との連絡調整を行う。
３．家族にオンライン面会への理解を広く求め、利用者、家族の安心感に繋げる。

＜介護支援専門員部門＞
１．入居者、家族との信頼関係構築を目指し、感染症等の状況を見ながら、可能であれば担当者会議に家族、本人にも参加して頂く。参加できない時には電話や書面等で最近の様子をお伝えしたうえで意向を確認し、ケアプランに反映する。本人、家族との関わりの中で入居前の生き方や生活観の把握に努め、個別性のあるケアプランを目指す。
２．契約、入居時より看取りを意識する。終末期を迎えられた方のこれまでの生き方や生活観を大切にし、その人らしさが保たれるようなケアプランの作成を行う。
３．目標を共有し、統一した援助を行えるように担当者会議だけでなくミーティングや連絡ノートを活用し、共通認識を深める。
４．短期入所利用者の居宅での担当者会議への出席、在宅連絡ノートや送迎等の機会の活用にて、情報を介護現場、家族と共有し在宅生活が継続できるように支援する。
５．他職種との情報共有と連携を図り、様々な社会資源を活用と科学的根拠に基づいたケアマネジメントを行い、必要な支援を一体的に行うことで入居者、家族が安心して生活が送れるように支援する。
６．LIFE のフィードバックから入居者の状況を把握し、ケアプランの立案に活かす。

＜機能訓練部門＞
１．個々のニーズに沿った機能訓練、計画書作成を行う。以前からの評価・訓練法、計画書内容の見直しを行い、より入居者本人に合った対応を選択し、機能維持・回復を目指す。
２．ベット上・車いす上でのポジショニングを多職種と連携し適正に行い、拘縮予防に努める。ポジショニングの掲示や勉強会を行う。又、福祉用具（クッション等）を充実させる。
３．訓練にレクリエーション的要素を取り入れ、楽しみを持って取り組んで頂く。短期利用者も含め、集団体操を実施していく。感染症流行時は、小集団での体操を検討する。
４．LIFE のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸから利用者の状況を把握し、訓練計画の立案に活かしていく。

＜ゆうナース部門＞

１．日常生活の中で入居者の変化を的確に捉え、疾病の早期発見・早期対応にあたり、健康管理に努める。

２．多職種協働の看取りケアに取り組む為に、看取りケアの研修を行い、技術、精神性の向上に努める。

３．研修参加や自己学習で医療知識を深める。また向上心を持ち資格取得に取り組む。技術、知識だけでなく、精神性、人間性の向上も目指す。

４．介護職員が安心したケアが実践できるよう、情報共有し医療に関する助言を行う。

５．施設内感染を未然に防ぐ為、感染症対策の継続した意識啓発、注意喚起と実施を行う。また感染症発生時には嘱託医の指示の下、最小限かつ早急な終息を目指す。

６．人事交流がスムーズに行えるよう、合同研修等を行い顔の見える関係作りを目指す。

＜ゆうヘルパー部門＞

１．入居者一人一人と真摯に向き合う。
個々の心身の状態、生活歴や生活リズムを把握し、入居者・家族が希望される生活を多職種連携で支援する。

２．看取りケア

・入居者や家族が安心した終末期を迎えられるように、本人・家族と寄り添い、その方が望まれる環境を整える。

・家族の心身の疲労や精神的負担に配慮しつつ、安心して〈看取り〉をゆうイングでと希望されるような施設にしていく。

３．知識・技術の向上

・自己評価を行い自らの介護スキルの見直し、評価することで職員の質向上を目指す。

・外部研修への参加、施設内勉強会、サンシルバーとの人事交流を行い新しい介護知識・技術・ICT 活用を実践することで、職員のスキルアップと業務の改善に繋げる。

・福祉機器を積極的に導入・使用することで入居者の方は元より職員も含め身体的負担の軽減・安全・安心に努めていく。

・介護福祉士実習受け入れ施設として、体制を整える為、介護計画の作成とケアへの反映をさせていく。

４．感染症対策
受診等の外出時、外部との接触が予想される時はマスクの着用・うがい・手洗いを徹底する。面会は施設の基準に基づいて行う。IT 機器を活用し、家族との繋がり・結びつきを感じられるサービスの提供を心掛ける。

＜ゆうキッチン部門＞

〇調理

１．委託業者の献立にこだわらず、臨機応変に地産地消を取り入れた食事提供をする。

利用者に楽しんで頂けるよう、四季を感じられる行事食やお楽しみ弁当を提供する。また献立表や献立の写真等を活用し視覚からも食事を楽しんで頂き、利用者の意欲向上、食欲増進につなげていけるように努める。

2．介護、看護と連携をとり、利用者の食事形態からみた食欲不良、嚥下状態、嗜好も踏まえて個別対応が出来るように利用者個々の理解を深める。

3．療養食、また看取りの方にも目を向けその都度、個別対応の食事提供をする

4．コロナウイルス感染、季節流行時のウイルス感染が無いように3密回避、手洗いの徹底、体調管理に気を付ける。食中毒、感染症予防、異物混入、ヒヤリハット等、安心安全な食事提供の為に毎月のキッチン会議にて勉強会を開催し、職員個々の衛生意識を高める。

5．緊急非常時、感染症発生時にはマニュアルに沿った対応が迅速に出来るように職員が周知徹底に努める

〇栄養

1．利用者の状態や食事の様子を観察し、他部門と連携して、食事形態、量、補助食品等検討を行い、利用者に無理なく安全に摂取していただける食事提供、栄養管理に努める。

2．利用者、家族の意向を尊重した栄養ケア計画書を作成するとともに、嘱託医と連携を図り、利用者の健康と経口摂取が維持できる継続的なサポートを行

3．療養食加算の対象となる時には、迅速に加算が取得できるように嘱託医と相談し、家族に同意を得る。

4．LIFE のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸから入居者の栄養状態を把握し、栄養ケア計画書作成に活かす。

＜グループホーム＞

1．環境

・家庭に近い環境を提供し、馴染みの関係作りにより、認知症の緩和を図る。

・定期的な行事、外出（入居者の希望）を計画し、季節感や非日常的な場を提供する。

・旧さわらび苑「ふれあいの湯」にて、ラヂウム鉱泉入浴を計画的に行う。

2．個別ケア

・多角的にニーズを検証し、根拠に基づいた個別援助計画を作成し、援助を行う。

・個々の能力を引出し、自立した生活が送れるよう援助する。

3．健康

・排泄、水分、栄養、睡眠を重視し、個々の健康管理に努める。

・コロナウイルス等の感染予防に努める。

・マニュアルに添って、感染予防、食中毒予防に努める。

4．食事

・入居者の楽しみの一つである「食」を、旬の物・地元の物を工夫しグループホームならではの食を提供する。

・誕生日の献立は入居者の希望の献立にする。

５．家族との連携

・家族には話やすい雰囲気作りや、連携を密にし「安心」の提供を行う。

・年４回の「グループホーム便り」を発行する。

・希望家族には写真をメールで送る。

６．地域交流

・地域との交流（文化祭に作品を展示する等）や、かかわりを大切にし開かれた施設として地域の理解を求めていく。

７．質の向上

・認知症、介護に関する研修に参加し、職員の質の向上を図る。

・放泉会の他事業所との連携を取り、技術や知識を得ながら質の向上に努める。

・LIFE のフィードバックから入居者の状況を把握し、ケアプランの立案に活かす。

８．防災

・火災や災害に速やかに対応できるよう、防災訓練を行う。

・限界集落に事業所があることから、有事の際は地域の団体とも連携を取りながら迅速な対応が図れるよう努める。

＜デイサービスゆうイング＞

１．選ばれるデイサービスの基盤作りができるよう地域に根ざした事業所を目指す。

２．職員間の情報共有・統一したケア、また関係機関との連絡を密にし、信頼される事業所運営を行うと共に、ご利用者・家族に満足頂けるデイサービスを目指す。

３．送迎については、個別に関する注意点・留意点を随時更新し、送迎時の事故や苦情をなくす。また臨機応変に送迎に対応出来る様心掛ける。

４．新型コロナウイルス他感染症蔓延予防に対し、利用者の健康管理への助言や体調観察を行い「持ち込まない」「持ち出さない」「拡げない」を原則とし対応に努める。

５．身体機能向上だけに着目せず社会生活・尊厳の保持も含めた状態改善を意識する。利用者が望む在宅生活・地域との関りが継続していけるケアの提供を行う。

６．ライフの活用を本格化し、利用者個々の情報から、計画を見直したり、居宅プランとの相違がある場合には担当者会議等を利用して提言をしていく。

＜居宅介護支援センターさわらび＞

１．利用者と家族に安心感を持っていただける対応を行う。

２．医療との連携を重要に受け止め、タイムリーにサービスが受けられるよう努める。

３．地域と顔の見える関係づくりを目指す（民生委員、まちづくりセンターとの関わり等）

４．地域包括ケアシステム、BCP（事業継続計画）の観点から、他機関や介護保険内外

のサービスと積極的に連携を密にとっていく。とりわけ感染症や有事に向けての取り組みを進めていく。

５．当事業所の移転（長久→池田）に伴い、地域貢献の一環として「まちかど介護相談所（仮称）」を兼ねて業務を行う。

６．目まぐるしく変わる地域情勢や利用者生活、また制度改正に少しでも対応できるよう、研修会や勉強会に積極的に参加をする。

＜サンチャイルド長久さわらび園＞

～♪音を奏でるサンチャイルド♪～

元気いっぱい★笑顔いっぱい★夢いっぱい★“成長の音色”を奏でましょう！

コロナ禍においてのこの３年間、相次ぐ休園や制限のある中での保育の対応など多忙極まる保育現場であった。一方、通園バス内の置き去り事件や保育園での虐待、暴行事件など全国の保育現場で起きており決してあってはならないことと深刻に受け止めている。
子どもにとって安心・安全な場であるべき保育所の信頼を取り戻すために、子ども主体という保育の基本を再認識し、日々の保育内容を点検しながら、子どもの人格を尊重し、安全で質の高い保育に当っていきたい。
また、新型コロナウイルス感染症が、５月より２類から５類に移行することに伴い、中止していた世代間や地域との交流を流行の状況を見ながら少しずつ再開していきます。
今年度も引き続き with コロナと上手く向き合いながら、大切なお子さまを健やかで安心できる環境の下で育み、園児の安全な生活、保育の創意工夫、質の向上を目指し、豊かな環境、養育を図っていきます。
そして本園のモットー「子どもたちの一日一日を大切に、育つ力に愛情を持って見守り、保護者の方が安心して預けられる保育園」を目指します。

１．保育理念

・子どもたちには安心・安全を、保護者には安心感と信頼感を与える保育を行う。

・子どもたち一人ひとりを理解し、個々に応じた丁寧な対応を心がる。

・子どもたちの健やかな成長のために、保育園と家庭が“両輪”となり共に育てる「共育」をすすめる。

・職員の人間性、専門性を高め、保育の質の向上を目指す。

２．保育目標　　～太陽の子　サンチャイルド～

・生命を大切にたくましく生きる「げんきな太陽の子」

・友だちとなかよく、思いやりの心を持つ「やさしい太陽の子」

・五感を養い感性豊かな創造力を持つ「かがやく太陽の子」

・自分のことは自分でできる「いきいき太陽の子」

３．保育方針

・温かく共感しながら受容的・応答的な保育

・健康で丈夫なからだを育む保育

・集団生活を通じて協調性や社会性を育む保育
・活動や体験を通して感性や創造性を育む保育
・一人ひとりの個性を尊重し自主性を育む保育
・家庭との連携を大切に、子どもの成長を見守る保育

４．保育内容

・未満児（0～2 歳児）

〇生きていくために必要な能力や知識を身につけます

① 基本的信頼感　②自己肯定感　③アタッチメント（愛情の絆）
④基本的生活習慣（返事、あいさつ、食事、排せつなど）

・以上児（３～５歳児）

〇幼児期までに育ってほしい“１０の姿”を育成します。

① 健康的な心と体　②自立心　③協同性　④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活と関わり　⑥思考力の芽生え　⑦自然との関わり・生命の尊重
⑧数量・図形、文字等への関心・感覚　⑨言葉による伝え合い　⑩豊かな感性と表現

〇多彩なプログラムで豊かな感性を育てます

・身体づくり：運動あそび・散歩・自然体験・ダンス・登山・雪遊びなど
・表現活動：リトミック・リズム遊び・歌・マーチング・音楽・絵画・造形など
・体験活動：季節の行事・地域行事・田植え・稲刈り・野菜づくり・お泊り保育など
・食育活動：三色運動・収穫祭・親子クッキング・郷土料理・世界の料理＆日本の料理・絵本給食を味わい、食の楽しさや文化を学ぶ
・文化交流：英語であそぼう・絵本の読み聞かせ・おはなしのとびら・お茶のお稽古
・芸術鑑賞：劇団「バク」、地元演奏家による芸術鑑賞（楽器・歌・踊り・ﾀﾞﾝｽなど）

・避難訓練　全園児（０～５歳児）

〇避難訓練：毎月一回、非常災害時（火災・風水害・地震・津波・不審者対応など）に備え避難訓練を行い、いかなる状況下でも、瞬時に安全に非難できるように訓練を行い、「命の大切さ」を伝える。

５．保育概要

（１）保育年齢：生後５７日～就学前（定員 120 名）
（２）特別保育：一時預かり保育・延長保育・障がい児保育・病後児保育
（３）地域交流：子育て講座事業

・世代間交流（サンシルバーさわらび・ゆうイングさわらびと交流、地域との交流）
・地域の方と田植え稲刈り、町民運動会、文化祭、土江子ども神楽の鑑賞
・年齢・異校種交流（伝統文化・市内小学校・市内保育園との交流）
・在宅子育て家庭との交流（ほっとな会との交流・ふれあい開放デー）

６．その他

・職員研修会：保育に関する最新の知見や動向を学び職員の資質向上とスキルアップを図る。
・保育の振り返りのために「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用する。
・保護者向け子育て交流＆学習会：保護者対象に親学・クッキング・親子ふれあい遊び

絵本の読み聞かせ研修会、バースデープロジェクトなど学び合える機会を提供し子育ての輪を広げる。
・情報発信：ホームページ・園だよりなどで活動状況の可視化を図り、また園からのお知らせをＪモバイルで流すなど、園と保護者が共有し円滑なコミュニケーションを図る。
・保護者会と連携を図り、園内外整備、美化活動に努め、子どもたちが安全・快適に過ごせる環境づくりを心がける。

＜長久ゆうゆう学童クラブ＞

１．理　念

保護者の就労等で支援を必要とする子どもたちに、「一緒に遊びに集中する」という体験を通して、小学生期の人間形成にとって大切な主体的にたくましく生きる力を育むとともに、安心して、のびのびと放課後を過ごせる場所を提供することによって、子どもの健全な育成を図る。

２．基本方針

〇遊び、学び、会話を通じて、それぞれの子どもの気持ちに温かく寄り添いながら接していく。
〇保護者とともに、宿題・身体づくり・仲間づくりに努め、子どもたちが主体的に過ごせるよう支援して行く。
〇地域との交流や自然体験を積極的に取り入れる。
〇子どもの人権・健康・安全に配慮し、危機管理に努める。

３．目　標

〇日々を主体的に過ごせるように
・一日の生活の流れをパターン化する。
・自分で自分の命が守れるよう、毎学期ごとに避難訓練（地震、風水害・不審者対応・火事を想定）を実施する。
〇日常生活に必要な基本的生活習慣を付けさせるために
・手洗い、うがい、私物の整理整頓・後片付け等を丁寧に指導する。
・いろいろな場面を通じて、友達と一緒に過ごす上で必要な協力や分担、決まり事を教える。
・引き続き基本的なコロナ感染対策を指導する。

４．その他

・波根町で「ゆめの子文庫」を主宰・勝部良子先生所蔵の児童書を寄贈いただき、図書スペースを設ける。読書、読み聞かせを通じ、豊かな情緒を育んでいく。
・新型コロナウイルス感染症予防対策が緩和されたとはいえ、高齢者施設との兼務職員もおり、予防対策を継続していく。
・職員のキャリアアップや支援員資格研修会へ参加し、資質の向上を目指します。
・情報発信（マチコミ等で学童クラブと保護者が共有し円滑な連携を図ります）。
・ICT を活用し、保護者とのオンライン相談等にも取組んでいく。